

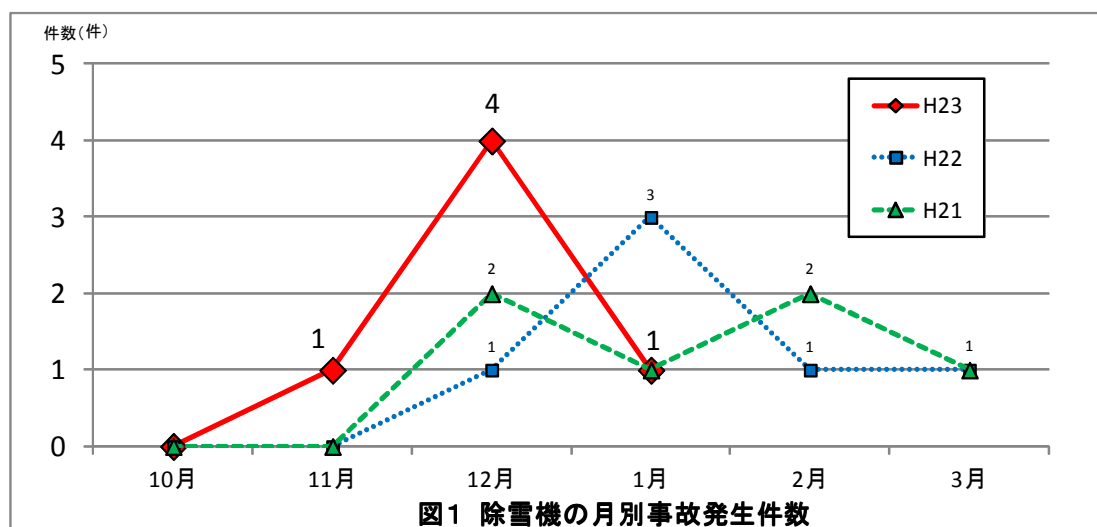
除雪機の事故の防止について（再注意喚起）

NITE製品安全センターは、平成23年11月10日に除雪機の事故の防止について注意喚起を行ったところですが、平成23年度に通知された除雪機に関する事故は、昨年度までと比べて増加傾向にあります。昨年末からの断続的な大雪により除雪機の使用が、増加したためと考えられます。

除雪機による事故は、被害が重篤になる傾向があること、3月にかけて積雪が予想されることから、事故の防止のため再注意喚起を行うこととしました。

1. 平成23年度の事故件数について

NITE製品安全センターに通知された製品事故情報のうち、除雪機に関する事故は、平成23年度に既に6件（※1）通知されています。事故発生日における月別事故発生件数を図1に示します。昨年度までと比べると増加していることが、分かります。



（※1）平成24年2月7日現在、重複、対象外情報を除いた受付件数

2. 事故事例の概要について

① 平成23年12月12日（北海道、重傷）

事故内容：作業中の除雪機の近くで作業をしていた人の衣服が、巻き込まれ、足を骨折した。原因を調査中。

② 平成23年12月12日（北海道、軽傷）

事故内容：作業中に除雪機の下敷きになり、軽傷を負った。原因を調査中。

③ 平成23年12月23日（北海道、死亡）

事故内容：安全装置（※2）のない除雪機をバックさせて倉庫に入れようとしたところ、倉庫と除雪機の間で挟まり死亡した。原因を調査中。

④ 平成24年 1月 8日（山形県、重傷）

事故内容：除雪機を使用中、排雪口に詰まった雪を取り除こうとしたところ、左手を負傷した。取扱説明書で禁止している、エンジンを停止させずに手を入れて雪を取り除こうとしていた状況及び緊急停止スイッチが故障したまま使用していた状況を含め、原因を調査中。

（※2）安全装置

- ① デッドマンクラッチ：使用者が操作ハンドルから手を離れた状態では、エンジンは停止しないが、作業用クラッチ及び走行クラッチはOFF状態にあるため回転部及び走行が停止する機構。（図2）
- ② 後進時非常停止装置：後進時において、非常事態が発生した時、直ちに除雪機を停止させるための装置。
- ③ 緊急停止スイッチ：使用者と除雪機の間をコード等で結び、コードの長さ以上に離れるとコードが外れてエンジンが停止し、さらに回転部及び走行が停止する機構。



図2 デッドマンクラッチの一例

3. 除雪機の事故の防止について

（1）注意喚起

除雪機は事故が発生すると被害が、重篤になる傾向があり、使用者以外が被害となる事故も発生しています。事故を未然に防ぐため、まずは事業者の取扱説明書をよく確認して使用してください。また、使用前には必ず点検・修理を行い、以下の点には特に注意をしてください。

- ① デッドマンクラッチレバーを固定したり、緊急停止スイッチを未装着で使用することが、死亡・重傷事故につながっています。非常に危険ですので絶対に行わないでください。（安全装置は、正しく使用してください。）
- ② 作業する際には、背後の壁や障害物に十分注意してください。
- ③ 転倒による事故が、発生しています。雪上での作業は、足元が非常に滑りやすいので、後方への移動や斜面での作業の際には、転倒に十分注意してください。

- ④ 作業をする場所の安全を確認し、決して子どもを近付けないでください。
- ⑤ エンジンが作動状態の際、雪詰まりを取り除くと回転部が突然動き出し、けがをする恐れがあります。雪詰まりを取り除く際には、必ずエンジンの停止を確認してから、雪かき棒を使って作業してください。

(2) 事業者の取り組み

除雪機安全協議会に加盟の製造事業者は、歩行型ロータリ除雪機について、平成16年4月出荷分から、使用者の安全性をより高めるためデッドマンクラッチを標準装備しています。

当該協議会では、デッドマンクラッチが装備されていない除雪機を現在使用している方に、使用者の年齢、使用環境等に合わせて、より安全に使用していただくためデッドマンクラッチが装備された製品の使用を勧めています。

除雪機安全協議会のホームページアドレス

<http://www.jfmma.or.jp/member/jyosetsuki.html>

以上

(本発表資料のお問い合わせ先)

製品安全センター製品安全調査課長 葛谷 弘之

担当：亀井、三好、岡田

電話：06-6942-1113 (直通)

※記者説明会当日

製品安全センター製品安全調査課長 葛谷 弘之

担当：亀井、三好、岡田

電話：03-3481-6566 (製品安全企画課)